



本気になるって、カッコいい！

副校長 廣田 晃士

いよいよ運動会シーズンになりました。天候が思わしくない日が多い中、運動会の練習が少しずつ始まっています。

1年生は晴れ間の体育で、外で練習をしていました。夏休みからダンスの振り付けを考えて準備を進めてきた先生方の指導にも熱が入ります。子どもたちも、カッコいい動きに目をきらきらさせながら取り組んでいました。練習を終えた子が「家でも練習してるの！おうちの人に早く見せたい！」と、今から当日が待ち遠しいという話をしてくれました。



また、運動会の運営を進めるオリンピック実行委員会や選抜リレーの練習も始まりました。低学年リレーの最初の集まりでは、リレーの選手としての心構えについて担当の先生から話がありました。「リレーの選手は、それぞれの組の代表として走るということ。みんなのために全力で頑張りましょう。リレーの時だけではなく、普段の生活でも頑張っていきましょう。」どの子も真剣に話を聞き、これから本格的に始まる練習に向けて、気を引き締めているように感じました。リレーを通して、学校生活への意欲や意識の高まりにも期待していきたいです。



今日の運動会に向けた集会で、実行委員長や今年度の応援団などの紹介がありました。児童実行委員長は「赤白関係なく、みんなで協力して全体を盛り上げたい。また去年できなかった実行委員長として、今年は一歩踏み出して頑張りたい。」と語ってくれました。赤組団長は、「赤白分かれているけれど、みんな全力で盛り上がっていったらいいなと思っている。最後の運動会に団長ができればカッコいいよねとおうちの人に言われて、団長に立候補したので頑張りたい。」白組団長は「みんなが楽しめるような運動会にしたい。そのために自分も応援団長として頑張りたい。」それぞれが6年生最後の運動会として、みんなで盛り上げていきたいという気持ちを気合たっぷりに語ってくれました。

最近の風潮として、一生懸命に頑張ったり、本気を出したりすることが恥ずかしい、全力を出して負けるのは格好悪い、何かに一生懸命になっているところをみられたくない。そういったマイナスの気持ちが邪魔をして、本気になりきれないことがあります。しかし、南瀬谷の子どもたちは、昨年度の運動会や、先ほどの応援団長の話にもあったように、みんな全力で取り組む雰囲気があると感じています。とても素晴らしいことだと思います。本気で取り組むからこそ、勝った喜びや負けた悔しさ、やり終えた達成感が味わえるものです。たとえ負けて悔しかったとしても、その悔しさは大きな経験となってその子の中に残ります。きっと同じような場面に出会ったときに、その経験を生かし、何とかして自分で乗り越えていこうとする力に代わっていくと考えています。

この時期になると、放課後にソーラン節の練習をするために学校に来たり、グラウンドにひかれたラインを使って、徒競走の練習をしたりします。本番に向けて一生懸命に練習する姿、カッコいいですね！

当日の子どもたちの本気の姿を、ぜひ楽しみにしててください。